

遊水地だより 第6号

編集 渡良瀬遊水地第2調節池周辺
地区治水事業促進連絡協議会
(小山市・栃木市・野木町)
発行 令和3年4月

平素より、渡良瀬遊水地第2調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会の活動にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。遊水地だより第6号の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

私たちの住んでいる地域は、思川、巴波川そして貴重な動植物が生息・生育する渡良瀬遊水地第2調節池に囲まれた、自然が豊かな田園風景を織り成す素晴らしい地域であります。

渡良瀬遊水地は、平成24年7月にラムサール条約湿地に登録されたことに伴い、現在、小山市・栃木市・野木町では、渡良瀬遊水地の保全・利用、また、その周辺にある地域資源の更なる活用・推進に努めております。

一方、当地域は、昭和22年のカスリーン台風で渡良瀬遊水地周辺地区の堤防が決壊し、当時の部屋、生井、寒川、赤麻の各村では一面水面下と化し、甚大な被害を被っており、再び堤防が決壊すれば、浸水深は5m以上、浸水継続時間は2週間以上になると想定されております。

「平成27年9月関東・東北豪雨」及び「令和元年東日本台風」では、住宅や公共施設、田畑が浸水など甚大な被害が発生しており、当地域では治水対策の推進が急務であります。

今後も地域住民が安全・安心に生活するには、当地域の治水対策は何よりも大切であり、且つ永年に亘る悲願でありますので、渡良瀬遊水地第2調節池周辺地区の継続した治水対策事業の促進について、周辺の自治体と協力しながら、関係機関への要望活動や研修会を実施してまいりたいと考えております。

カスリーン台風から70年以上の月日が流れ、被災体験者の高齢化も進んでいることから、自然災害の恐ろしさ、また治水機能の重要性を後世に伝えていきたいと思っておりますので、引き続き皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



協議会会長 米田 弘

関係機関への要望活動

1. 佐藤勉 衆議院議員への要望活動

平成30年12月13日



2. 利根川上流河川事務所長への要望活動

令和2年11月16日



【要望内容】

- 1 渡良瀬遊水地第2調節池の掘削による貯留容量の増加及び洪水調節機能の向上
- 2 渡良瀬遊水地に流入する思川・巴波川における、積極的な河道掘削と、樹木の伐採による流下能力確保
- 3 上記掘削土を活用した堤防強化の推進と、堤防拡幅による緊急時の一時避難場所（緊急避難地等）の確保

国土交通副大臣・政務官が 渡良瀬遊水地を視察！

平成30年6月7日、高橋 克法参議院議員（当時国土交通大臣政務官）が、渡良瀬遊水地及び仙井木川排水機場の視察を行いました。視察後に行われた手交式では、米田会長が開催の挨拶及び要望書の提出を行いました。

また、令和2年7月20日には、御法川 信英衆議院議員（当時国土交通副大臣）及び佐藤 勉衆議院議員（現自民党総務会長）が、渡良瀬遊水地及び思川開発事業（南摩ダム）の視察を行いました。渡良瀬遊水地では、令和元年東日本台風等で重要な役割を担った治水機能や、良好な湿地保全・再生の取組について、利根川上流河川事務所より説明を受けました。



視察後の手交式で高橋政務官へ要望書を提出



御法川副大臣・佐藤代議士と当協議会役員

ハッ場ダム・南摩ダム視察研修

平成30年10月22日及び令和元年12月2日はハッ場ダム（群馬県長野原町）の視察研修を行いました。ハッ場ダムは、ダム本体建設当初から継続して視察研修を続け、令和元年には完成したダムを視察し、感慨深く有意義な視察研修となりました。

また、令和2年12月1日は南摩ダム（栃木県鹿沼市）の視察研修を行いました。ダムサイト展望広場からの風景は壮観で、今後のダム本体工事に期待を膨らませる、実りの多い視察研修となりました。

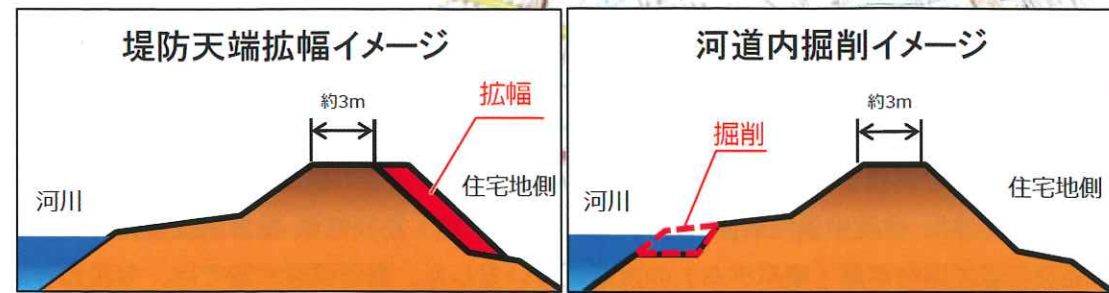


ハッ場ダム視察研修



南摩ダム視察研修

渡良瀬遊水地第2調節池周辺 整備状況



令和元年東日本台風における洪水に対して、渡良瀬遊水地では約1.6億m³、菅生調節池、稲戸井調節池、田中調節池の3調節池で約9,000万m³、合計で過去最大となる約2.5億m³(東京ドーム約200杯)の洪水貯留効果を発揮しました。
※利根川上流河川事務所HP 令和元年台風第19号による出水速報より引用

